石鎚の聖流郷　面河

刻を超えて

面河村閉村記念誌

愛媛新聞でみる戦後55年

閉村記念誌　刻を超えて　面河村

石鎚の聖流郷　面河

刻（とき）を超えて

面河村閉村記念誌

愛媛新聞でみる戦後55年

天狗岳「御来光」

発刊にあたって

面河村長　梅木正一

悠久の時の流れの中で、面河村は今、百十四年の歴史に幕を降ろそうとしています。

社会の激動と変革の中で、苦境を乗り越え、村の将来と住民福祉の向上を期して、新しく生まれ変わるためです。

しかしどんなに世の中が変わろうとも、忘れてはならないもの、後世に伝承しなければならないものがあります。それは、生まれ育ったふるさとの風景であり、融和協調の中で育まれた人々の心と、お互いの友情です。

私たちは長い人生の中で出逢った感動や、友情などを心の糧として、また村の歴史として残さなければなりません。

霊峰石鎚の裾野（すその）に広がるわがふるさと面河村は、自然資源に恵まれており、感動的な四季の絶景や恒例の年中行事、イベント、お祭りなど、古きよき時代の思い出として残したいものがたくさんあります。

このたびの閉村にあたり、愛媛新聞社の協力を得て、五十五年間にわたる面河村に関する新聞記事をまとめた『刻（とき）を超えて』を発刊しました。いずれの記事もその当時、村民をあっと驚かせた内容ばかりです。

過疎の厳しさに悩む面河村ではありますが、四季を彩る豊かな自然や信頼で結ばれた厚い人情など、誇れるものを持っており、それは記事の中で再び出逢うことができます。活字と写真を通して説得力があり、史実として信用できる内容です。閉村記念誌として長く後世に伝えられることを願っております。

ところで、過疎と不況の激しさが一層進む中で、長年懸案の合併問題も特例法の締め切り期限が示されたことで、わが面河村は、郡内三町村と平成十六年八月一日に合併することになりました。

合併を決意した背景には、農林業の長期低迷や少子高齢化などで村の財政環境が悪化し、加えて、これまで依存してきた国の財政事情が極度に悪くなったことから、課税客体の乏しい村では、財政的に行き詰まってしまったからです。

将来にわたり、行政基盤の維持はもちろん、財政の健全化や行政サービスの維持向上を図るため、やむを得ぬ選択でした。村を閉じることにはまだ未練が残る中で、国が取り組む三位一体の改革で、最後のとどめを刺された感じすらして、合併は間に合ってよかったと思っています。

激動と変革と先行き不透明な状況の中で、村の行く末と住民の幸せを願うため、私は厳粛に村の幕を降ろし、新町の誕生に期待を込めて、残された任務を果たしたいと思っております。

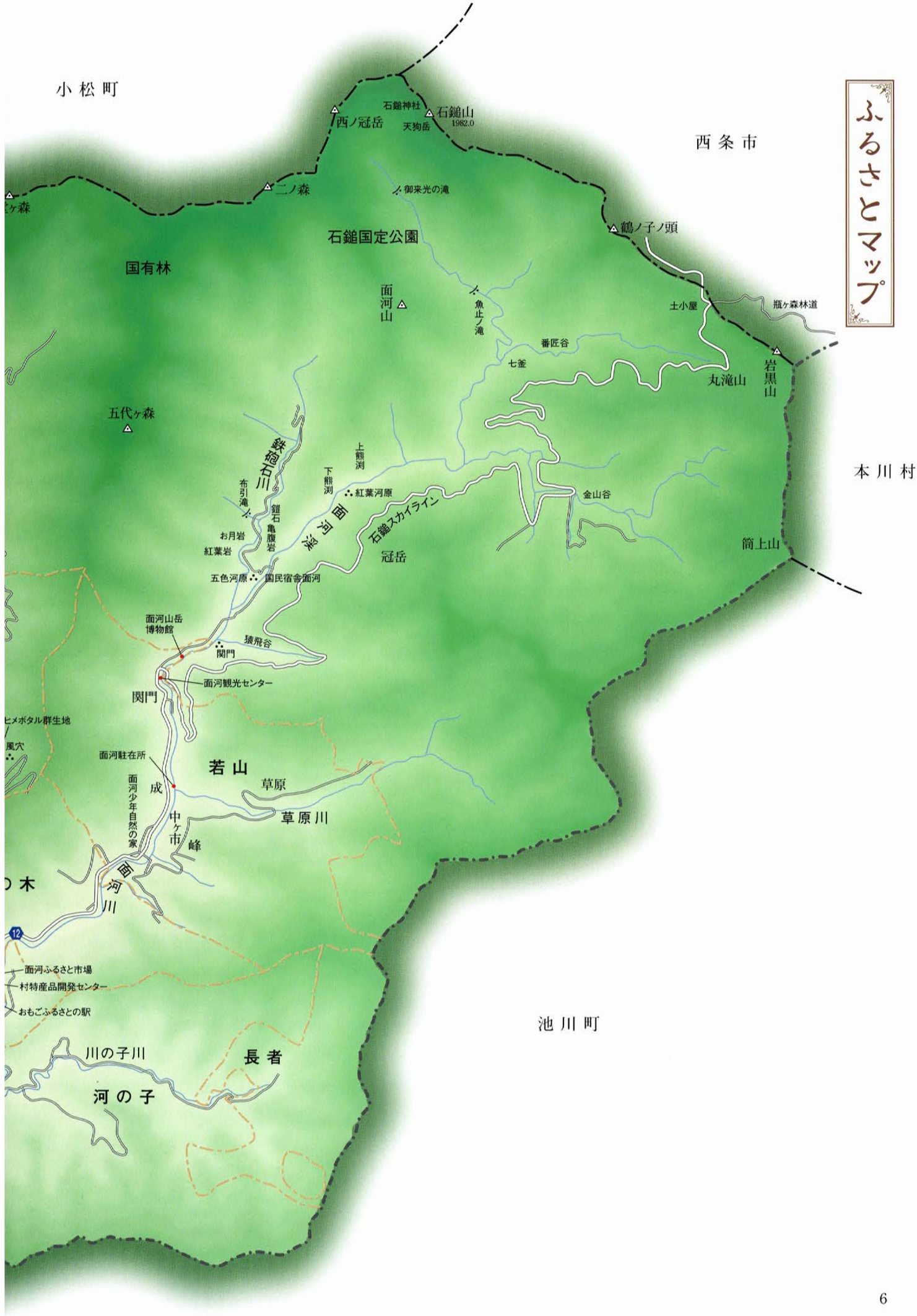
今は、特色を生かした個性化の時代であり、自己決定、自己責任の時代とも言われています。不満や苦しさがあっても甘えがきかない時代です。

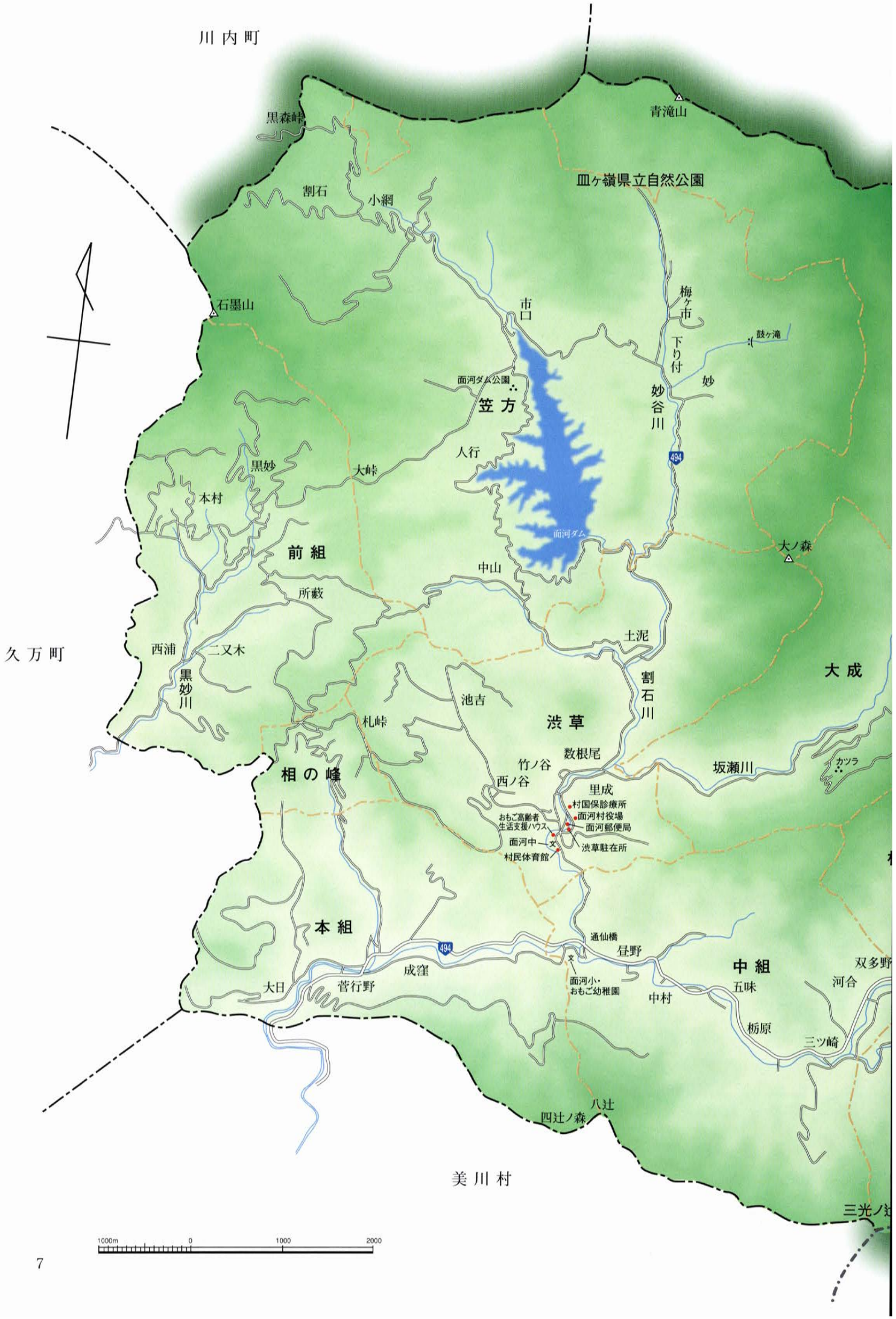
合併による動揺と不安定な移行期こそ、融和協調と一致団結が大切だと思います。その上で、すべての村民が生きがいや価値観を共有してともに頑張ろうではありませんか。

我がふるさとに永遠の輝きを、そして村民の皆様に永久(とわ)の幸せあらんことを祈って、発刊のご挨拶(あいさつ)といたします。

平成十六年七月

ふるさとマップ


小松町
西条市
本川村
池川町
西ノ冠岳
石鎚神社
天狗岳
石鎚山
1982.0
二ノ森
御来光の滝
鶴ノ子ノ頭
石鎚国定公園
国有林
面河山
魚止ノ滝
土小屋
瓶ヶ森林道
番匠谷
七釜
丸滝山
岩黒山
五代ヶ森
鉄砲石川
上熊渕
下熊渕
紅葉河原
金山谷
布引滝
鎧石
亀腹岩
お月岩
紅葉岩
面河渓
石鎚スカイライン
冠岳
筒上山
五色河原
国民宿舎面河
面河山岳博物館
猿飛谷
関門
面河観光センター
関門
ヒメボタル群生地
風穴
面河駐在所
若山
成
草原
面河少年自然の家
中ヶ市
草原川
峰
面河川
面河ふるさと市場
村特産品開発センター
おもごふるさとの駅
川の子川
長者
河の子


川内町
久万町
美川村
黒森峠
青滝山
皿ヶ嶺県立自然公園
割石
小網
石墨山
市口
梅ヶ市
下り付
鼓ヶ滝
妙
妙谷川
面河ダム公園
笠方
人行
494
黒妙
大峠
本村
面河ダム
大ノ森
前組
中山
所藪
土泥
西浦
二又木
黒妙川
大成
割石川
池吉
札峠
渋草
数根尾
竹ノ谷
西ノ谷
坂瀬川
カツラ
相の峰
里成
村国保診療所
面河村役場
おもご高齢者生活支援ハウス
面河郵便局
面河中
渋草駐在所
村民体育館
本組
通仙橋
494
昼野
成窪
面河小・おもご幼稚園
中組
双多野
大日
菅行野
中村
五味
河合
栃原
三ツ崎
八辻
四辻ノ森
三光ノ辻
1000m
0
1000
2000